
海外のRDM支援活動事例報告

第17回 月刊JPCOAR

2023年2月15日（水）

神戸大学附属図書館電子情報グループ電子図書館担当

国立大学図書館協会資料委員会オープンサイエンス小委員会タスクフォース

花崎 佳代子

国立大学図書館のRDM支援力強化に向けて

国立大学図書館が各大学の研究データ管理・公開に実質的に貢献

(活動中間報告会) 月刊JPCOAR 令和5年2月15日(水) 14-16時

大学のポリシー策定を支援

策定段階等に応じた課題解決を促進

① 研究データポリシー策定のためのワークショップ

令和4年11月28日(月)

所属機関のポリシー策定状況や課題を共有し、少人数で意見交換・課題解決

② RDM事例共有・意見交換会

令和5年1月30日(月)

AXIES・JPCOARの「研究データ管理事例集」から具体的な実践を紹介

RDM支援業務の設計と図書館職員による実践

図書館職員のスキル向上

RDM支援活動の事例分析と共有

海外先進大学にインタビューし国内に共有

- ・ 支援チームメンバーの専門分野や経歴は？
- ・ 支援チームに参加する図書館職員の役割は？
- ・ 支援業務に必要な知識やスキルは？
どうやって身に着けた？
- ・ 研究者から求められているもの・ことは？

インタビュー先(一部調整中)：ライデン大学、ノルウェー北極大学、ケンブリッジ大学、ワーゲンゲン大学

(京大・阪大・神大・奈女・奈教の各図書館による共同翻訳「データ管理で研究者と協力するために：クックブック」掲載事例から選定)

RDMのための標準技術の普及 RDA編「メタデータ標準カタログ」

日本語訳12月15日(木) 公開

各学術分野ごとの、研究データ記述用標準メタデータの解説集。理系出身図書館員等が各分野ごとに日本語化を監修

研究データに適切なメタデータを付して国際流通性を高められるよう、研究者への助言・補助



NII RDC/
GakuNin RDMについて知識がなく、画面を見たこともない職員向け

GakuNin RDMに触れてみる会

RDM支援業務の設計の参考のため、機能概要を把握

第1回 令和4年12月23日(金)
第2回 令和5年1月11日(水)

データジャーナルとはどんなものか南山さんに教えてもらう会

令和5年2月1日(水)

国立大学図書館協会 資料委員会 オープンサイエンス小委員会

(小委員会)

委員長：永盛克也(京都大学)

京都大学
大阪大学
神戸大学

富山大学
奈良女子大学
大阪教育大学

若手職員によるタスクフォース

東京大学
名古屋大学
京都大学
神戸大学

広島大学
国立民族学博物館

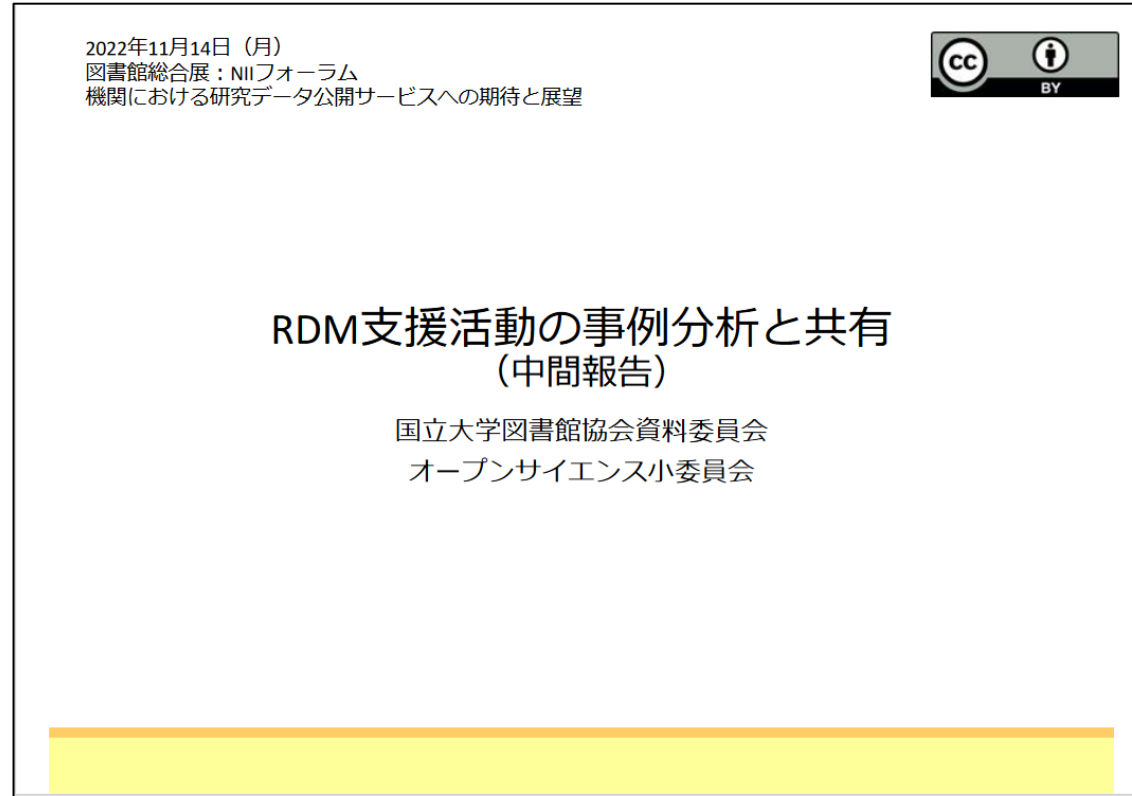
現役の理系出身図書館職員等による専門サポートグループ

北海道大学
東北大学
東京大学
東京工業大学

富山大学
名古屋大学
奈良先端科学技術大学院大学
神戸大学

広島大学
愛媛大学
国立情報学研究所

これまでの活動



- 『データ管理で研究者と協力するために：クックブック』確認
- インタビュー内容の協議
- インタビュー先機関選定
- インタビュー先機関のRDM支援体制調査
- インタビュー打診・アンケート送付
- インタビュー実施

<https://www.nii.ac.jp/event/other/libraryfair/2022/>
https://www.nii.ac.jp/event/upload/libfair2022_forum1_3_2.pdf

ライデン大学

概要

- 1575年創立 オランダ（ライデン・ハーグ）
- 教職員：7,600名、学生：34,165名
- 7つの学部 + 研究所

- Archaeology
- Governance and Global Affairs
- Humanities
- Law
- Medicine/Leiden University Medical Center
- Science
- Social and Behavioural Sciences

研究データポリシー

- [Leiden University Data Management Regulation](#)

2016年策定→2021年改訂

- 研究前：DMP記述
- 研究中：データの安全な保管
- 研究後：データを10年保存

- 詳細は学部や研究所の**データプロトコル**で定めることを記載

分野ごとに従うべき行動規範や手続き

学部や修士のプログラムでのデータ管理について

RDMの対象となるデータ

各分野ではFAIR原則はどのように適用されるのか

登録に使用すべきリポジトリ

長期保管すべきデータの判断基準

RDM支援の発展

- RDM Project (2014-2016)
ポリシー策定、アドボカシー、各部署のパイロットプログラムによる
課題の明確化、現状のサービスの評価
→ RDMの設備やツール選択が課題 → **サービスカタログ**を公開
<https://digitalscholarship.nl/rds/>
- Implementation Programme (2017-2020)
広報、サービス提供に関する検討（コスト、人員、ワークフロー）、
インフラ整備、トレーニングの提供
→ 各学部での**データスチュワード**雇用・データプロトコルの策定

RDM支援体制

- **データマネジメントネットワーク**
学内のRDM関係者（中枢＋学部）のネットワーク。イベント等で情報や経験を共有
- 中枢部門
図書館、ICT部門
- データスチュワード（各学部1名）
各学部で雇用。部局内でのRDMに関するアドバイス、学内のRDM支援のニーズ調査や体制整備、ポリシー対応やそのモニタリングなど
- Information manager（各学部1名）
データ管理や公開に関するソフトウェアの相談窓口
- Privacy officer（各学部1名）
データ公開にかかわる、個人情報やGDPRに関する相談窓口

データスチュワード

- 求人情報の一例

<https://www.universiteitleiden.nl/en/vacancies/2022/q1/22-18311203data-steward-social-sciences>

- フルタイム、専任（1年間）
 - 社会科学分野の修士以上、データ管理の経験や知識など
 - 部局内でのRDMに関するアドバイス、学内のRDM支援体制整備、ポリシー対応やそのモニタリングなどを実施
 - 学部内のほかの研究支援スタッフや、中枢のRDM支援スタッフ（図書館やICT）、ほかのデータスチュワードと連携
- ジョブディスクリプション等の詳細は学部が決定
 - 継続的な雇用（資金確保）が課題

図書館の取組

- 6名でサービス提供（CDS = Center for Digital scholarship）
 - 以前は2名のサブジェクトライブラリアンが担当
- スタッフの方は修士号保持
- ウェビナー、研修、コミュニティへの参加、講師としての実践などを通しスキル育成
- 全学的なRDM支援体制の企画・調整、コミュニティ構築、トレーニング、リポジトリ登録支援、問合せ対応などを実施
- 機関リポジトリではなく国が運営するリポジトリへの登録を推奨。さらに適した分野別リポジトリがあれば適宜推奨。
 - 4TU.ResearchData <https://data.4tu.nl/info/en/>
 - DANS <https://dans.knaw.nl/>

研修の実施

- DMP作成ワークショップ、データFAIR化ワークショップ、分野別・テーマ別、博士課程学生向けなど

<https://www.library.universiteitleiden.nl/researchers/data-management/training-data-management>

- データスチュワードやprivacy officer、研究者等も協力
- 共有に関しては、研究中（多くの場合一定範囲での共有）と、研究後（公開もできる）を区別するようにしている
- GDPRや倫理委員会の求める条件など、センシティブな情報にも時間を割くようにしている

DMPの作成支援が研究者の興味のきっかけになることが多い

ノルウェー北極大学

概要

- 1968創立 ノルウェー（トロムソ等）
- 教職員：3,300名、学生：15,500名
- 6つの学部

- Biosciences, Fisheries and Economics
- Humanities, Social Sciences and Education
- Engineering Science and Technology
- Science and Technology
- Health Sciences
- Law

研究データポリシー

- [Principles and guidelines for management of research data at UiT](#)

2017採択→2021改正

- DMPの作成
- データの保管
- データはできるだけ公開。不可の場合もメタデータはすべて公開。

RDM支援の発展

2014	キュレーションサービス、“Working group RDM UiT”、TROLLing（言語学分野のリポジトリ）運営開始 https://dataverse.no/dataverse/trolling
2015	RDMに関する調査、報告、提言
2016	研修、“UiT Board: Commission for policy and infrastructure”、UiT Open Research Data（機関のデータリポジトリ）開発 https://dataverse.no/dataverse/uit
2017	ポリシー策定、ポータルサイト、研究中のデータ保管基盤、DataversoNO（機関横断のリポジトリ）運営開始 https://dataverse.no/
2018	博士課程学生対象のDMP義務化、DMPのテンプレート開発・研修、そのほか研修拡大
2019	DMPのガイドライン、センシティブデータ取り扱い対応、ロードマップ
2020	包括的な研究中のデータ保管基盤

RDM支援体制

全学体制

- Department of Research and Development
 - ポリシーや戦略の策定
- IT Department
 - 技術面、データアーカイブのインフラ
- UiT Library
 - サポートサービス、研修、データキュレーションなど

ミーティングを重視

短期的/長期的なゴールや、
各部署のスキル・役割の共有
が連携のカギ

学部

- データスチュワード雇用の事例も

図書館で、各学部のRDM支援
人材の実態把握やネットワー
キングを計画中

図書館の取組

- データキュレーションや研修、DMP作成支援、問合せへの対応、サービス開発等を実施
- 担当者は、research and publishing supportチームかteaching and learning supportチームのライブラリアン
- サブジェクトライブラリアンや、Open Data担当ライブラリアン等
- サブジェクトライブラリアンがデータキュレーション担当
- 研修や問合せ対応等、興味や専門に応じて柔軟に分担
- 自身の研究の経験も生かせるほか、セミナー、ワークショップ、会議への参加や、経験者ととともに実際に業務をすることでスキル育成

<https://en.uit.no/ub/about/organization>

DataverseNO

- UiTが運営。TROLLingやUiT Open Research Dataもサブコレクションのひとつ
- ノルウェー国内の機関がサブコレクションを構築でき、各機関のサブジェクトライブラリアンがデータキュレーションを実施
- キュレーターはDataverseNOの／国外のDataverseの管理者のネットワークに参加可
- CoreTrustSealの認証を取得（2020.3）

<https://dataverse.no/>

研修・アドボカシー

- 研修の内容
 - テーマ別研修（例：概要、組織化・文書化、保管、共有、検索・引用、契約、権利、DMP、センシティブ情報）
 - 博士課程学生向けの全学的教育プログラムの一部としてRDMの講座を実施
- 他キャンパスでの**オープンサイエンスツアー**
 - 部局長やプロジェクトリーダー・図書館員とのミーティング
 - 研究者や学生向けのレクチャー
- RDMのセミナー講師は Semester に一度集まり評価を実施。研修の実施は二人一組で行い（初心者は補助者として参加）お互いに評価

参考文献

- Verhaar, P., Schoots, F., Sesink, L., & Frederiks, F. (2017). Fostering effective data management practices at Leiden University. *LIBER Quarterly: The Journal of the Association of European Research Libraries*, 27(1), 1–22.
<https://doi.org/10.18352/lq.10185>
- Verhaar, P., Schoots, F., Sesink, L., & Frederiks, F.(2017). Implementing a Research Data Policy at Leiden University. *IJDC*, 12(2), 1-10
<https://doi.org/10.2218/ijdc.v12i2.575>
- Laurents Sesink. (2017). Championing Open Science at Leiden University.
[http://beopen.uns.ac.rs/documents/54a5b27629179d9220909f6b6b09807f/Presentations_Laurents%20Sesink%20\(Championing%20Open%20Science\).pdf](http://beopen.uns.ac.rs/documents/54a5b27629179d9220909f6b6b09807f/Presentations_Laurents%20Sesink%20(Championing%20Open%20Science).pdf)

参考文献

- Helene N. Andreassen, Philipp Konzett, Stein Høydalsvik, Leif Longva, Obiajulu Odu. (2015). UiT Open Research Data. https://www.ntnu.no/ub/emtacl/15/presentations/Emtacl15_UiT_Open_Research_Data.pdf
- Helene N. Andreassen, Philipp Konzett, Stein Høydalsvik, Leif Longva, Obiajulu Odu. (2016). Open Research Data and our experiences using Dataverse. <https://munin.uit.no/handle/10037/10426>
- Helene N. Andreassen, Randi Østhus. (2019). "We can work it out!" Collaborating on Research Data Management Services at UiT The Arctic University of Norway. <https://hdl.handle.net/10037/15984>
- Phillip Konzett. (2020). DataverseNO : A national repository for research data from Norway. https://forumgdi.rcaap.pt/wp-content/uploads/2020/11/PhilippKonzett_DataverseNO_7th_Portuguese_RDM_Forum_2020.pdf